

『利用者さんと向き合って』

藤原 幸子

私が担当させてもらっている A さんは自分の意図することと違う場合や、思うようにならない場合、上手な感情の調節が難しい方です。当初、私は接し方がわかりませんでした。

そんな A さんとの関係の中で『どういう形であっても自分を表現できる事が A さんの良さ』と捉えてはどうかと気づきました。すると A さんの「何を思っているのか、どうしたいのか、また、どうして欲しいのか」が少しずつ分かってきたように思います。それに伴い A さんからの反応も変わってきました。

以前は何かある度に私が怒っていると思ひ込み、私の靴にいたずらをした時に話しかけるとさらに怒ってしまいました。しかし最近では、同じ行為でも「A さん、私の靴を触ったでしょ？」と聞くと、『その反応、待ってました』とでも言うかのように笑って逃げていきます。追いかけると嬉しいようで声を出して笑う姿が見られています。

私が失敗して落ち込んでいると、なぐさめてくれているのか、隣にきて髪がくしゃくしゃになるくらい撫でてくれた時は、なんとも言えない気持ちになり涙がぼろぼろでできました。

A さんを始め、柿の木荘の皆さんとの関わりをこれからも大切にしていきたいと感じている今日この頃です。